

がまかつタチウオテンヤMS L、Hの追加でテンヤ釣り鉄壁

●発売以来テンヤロッドの定番となりつつある三石忍プロデュースの「タチウオテンヤMS」。中弾性素材と高弾性素材をミックスした操作性と感度に優れたブランク、これに高強度・高感度のスーパートップを搭載したテンヤタチウオ最強ロッド。糸が絡みにくいスパイラルガイド設定。既存の3アイテムに加え、最柔軟モデルのL、最硬調モデルのHの2タイプが追加発売された。全5機種となり、今や全国的な釣法となっているテンヤタチウオの釣り場別、様々な釣法のすべてに対応可能となった。



▲テンヤ釣りが大好きな船長も新製品に興味津々

タイプ	標準全長 (m)	希望本体価格 (円)	標準自重 (g)	仕舞寸法 (cm)	使用材料 (%)	モーメント	継数 (本)	先径 (mm)	錘負荷 (号)
L	1.8	38,500	120	135	C99.9 G0.1	5.3	2	0.8	20~50
ML	1.8	38,500	120	135	C99.9 G0.1	5.3	2	0.8	20~50
M	1.8	38,500	123	135	C99.9 G0.1	5.6	2	0.9	20~50
MH	1.75	38,500	123	130	C99.9 G0.1	5.5	2	0.9	30~60
H	1.73	38,500	128	128	C99.9 G0.1	5.7	2	1.0	30~60

※C=カーボンファイバー、G=グラスファイバー。※モーメント=標準自重(kg)×竿尻から重心までの長さ(cm)



▲三石さん考案エレキテル釣法は疲れにくいのも特長



▲掛かり所はバッチリ
▼一気に抜き上げてみればドラゴンサイズ



▲納竿直前にだめ押しのメートルオーバー



▲レギュラーは1メートル前後の良型ばかり



H (テンヤ40号使用時)



L (テンヤ40号使用時)

タチウオテンヤMS L
●曲がりしろが幅広いし、きれいなベンディングカーブを描く

タチウオテンヤMS H
●アタリは意外に小さかったという130センチのドラゴン、Hをこれだけ曲げた

食わせのL、掛けのH がまかつ三石忍が東京湾で実釣 タチウオテンヤMS ニュータイプ2機種追加発売

●東京湾のテンヤタチウオブームの一翼を担ってきた専用竿「タチウオテンヤMS」、従来ある3タイプに加え新たに2モデルが追加発売された。今回は三石忍さんが新製品のお披露目を兼ねて東京湾に釣行した模様をお届けしよう。

▲「L、Hの発売でより選択肢が広がりました」と三石さん
▶釣りは走水沖の水深65メートル前後をメインに狙った
◀テンヤは各色、40号を使用



★当日最大、130センチのドラゴンゲット

ほとんどアタリをとらえて同じく1メートル級を取り込んだ。
この1本で当日のパターン、Hでの誘い方をつかんだのか、散発的ながらタチウオを釣り上げていく。そしてついには当日船中最大となる130センチジヤストのドラゴンをキャッチした。
「カーボントップは手感度もいいし、穂先の戻りも早いので素早いアタリの感知に優れています」と言いながら、もう十分でしょうとばかり、納竿まであと2時間を残すところでLにチェンジした。
「テンヤ20〜30号を多用する瀬戸内方面、東京湾では浅場や極端に食い込みが悪いときに向いています」
確かにHに比べるとLは穂持手前からスローに曲がり込んでいくアクション。必然的にバイブレーションの動作も大きくなる。
水深があり、潮の流れも速い走水沖ではやや無理があるかと思えたが、しっかりとアタリをとらえ、1メートル前後を3本追加して午後1時の納竿を迎えた。
「タチウオテンヤMSが5種類となりました。このラインアップで全国の釣り場、様々な釣り方にすべて対応できるはず」と三石さん。久しぶりに2ヶオーバーの釣りとなったこともあり、満足した表情で船を下りた。

東京湾のタチウオは8月を目前に猿島〜走水沖の水深60メートル前後が主戦場。いよいよテンヤで大型が好調に釣れ始めている。
乗船したのは三浦半島走水港の教至丸、テンヤ釣りでは定評のある船宿だ。平日ながらこの日も2隻出しの盛況で、三石さんは左舷トモに席を取る。7時15分に出船となり、5分と走らずに走水沖の水深65メートル前後で釣り開始となった。
「まずはタチウオの活性、潮具合などを見たいので従来モデルのMHで様子見します」と三石さん。指示ダナは50〜60メートル、テンヤは40号を使用。開始してすぐ、三石さんがヤリトリを始めるが、取り込みでバラシ。
「今日は活性がいいみたいですね」と言いながら、すぐさま1メートル級を取り込んで、新製品Hにチェンジ。
穂持から先がチヨコンと曲がるだけの調子は、MHに比べれば明らかに硬めだが、細かなアクションを加える東京湾の釣法にはリズムカルに誘いが行えるとのこと。
「調子的に言えば8.5:1.5、極端な先調子ではないので、止めたときのアタリもよく出ます。バイブレーションやトウィッチもしやすいモデルです」
三石さんは得意の電動微速巻きバイブレーション「エレキテル釣法」を駆使。ここ数日の状況からは苦戦が予想されたが、先の言葉どおり活性は高く